

石川島記念病院 薬剤科 浅田 由佳

功 績 非常勤医師による入院患者さんの診療業務に対し、入院前薬剤師外来・病棟での状態把握と情報提供、回診同行を行うことにより、診療業務をサポートして、質のよい薬剤管理を患者さんに提供した功績。

推 薦 者 薬剤科 科長 佐久間 尚子

推 薦 理 由 常勤整形外科医師が不在となり、薬剤科の病棟スタッフは、患者さんが不利益にならないように入院中の薬剤管理を行わなければならないと考えましたが、その中で浅田薬剤師は、非常勤医師と主治医の間を薬を通して繋ぐ役割を果たし、医師から強い信頼を得るだけでなく、急性期病院における薬剤師の立ち位置を確立してくれました。この功績に対し、理事長賞に推薦します。

内 容

当院は、H29.7月より9か月間、整形外科の常勤医が不在となり、大学病院から来る非常勤の外来医が、水曜日に手術を担当し、術後の患者さんは、院長が主治医となり、3名の非常勤医が月・水・金の隔日に回診して症状を管理する体制となりました。

病棟薬剤師の浅田は、この状況下で、入院患者さんの薬剤管理が正確・円滑にできるよう、以下の体制を立上げました。

1. 「整形オペ入院時薬剤師外来フローチャート」を作成し、外来看護スタッフの協力のもと、入院前薬剤師外来を開始。持参薬の継続・中止の指示確認を、入院前に行いました。
2. 術後の患者さんには、頻回に患者のもとへ出向き、術後の疼痛コントロールの確認や、検査値等から術後感染、脱水、貧血等の状態把握を行い、医師に情報提供を実施しました。
3. 非常勤医師による回診時、医師の指示を確認し、ツールとして「口頭指示受け書」を作成。これを基に主治医や執刀医に状況報告をしました。この「口頭指示受け書」は、計150件活用されました。この結果、入院中の患者さんに質のよい薬剤管理を提供できました。

また、非常勤整形外科医から、当院に患者さんを紹介・手術・入院させることについて、強い信頼を得るに至り、常勤の整形外科医不在の間も、50件強の手術を行なって頂くことに繋がりました。